# 弥陀ヶ原の火山活動解説資料（平成 31 年２月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

立山地獄谷では熱活動が活発な状態が続いています。2012 年６月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇が確認されていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

## ○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図１、図３－①、図４－①）
瀬戸蔵山西監視カメラ（弥陀ヶ原の西約 14km）による観測では、地獄谷からの噴気の高さは概ね 200m以下で経過しています。

・地震や微動の発生状況（図２、図３－②、図４－②）
弥陀ヶ原付近を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過しています。火山性微動は観測されていません。

・地殻変動の状況（図３－③～⑤、図４－③～⑤、図５）
GNSS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html

図１　弥陀ヶ原　地獄谷からの噴気の状況（２月 22 日、瀬戸蔵山西監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧できます。
次回の火山活動解説資料（平成 31 年３月分）は平成 31 年４月８日に発表する予定です。
この資料は気象庁のほか、国土地理院、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 25000（地図画像）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。

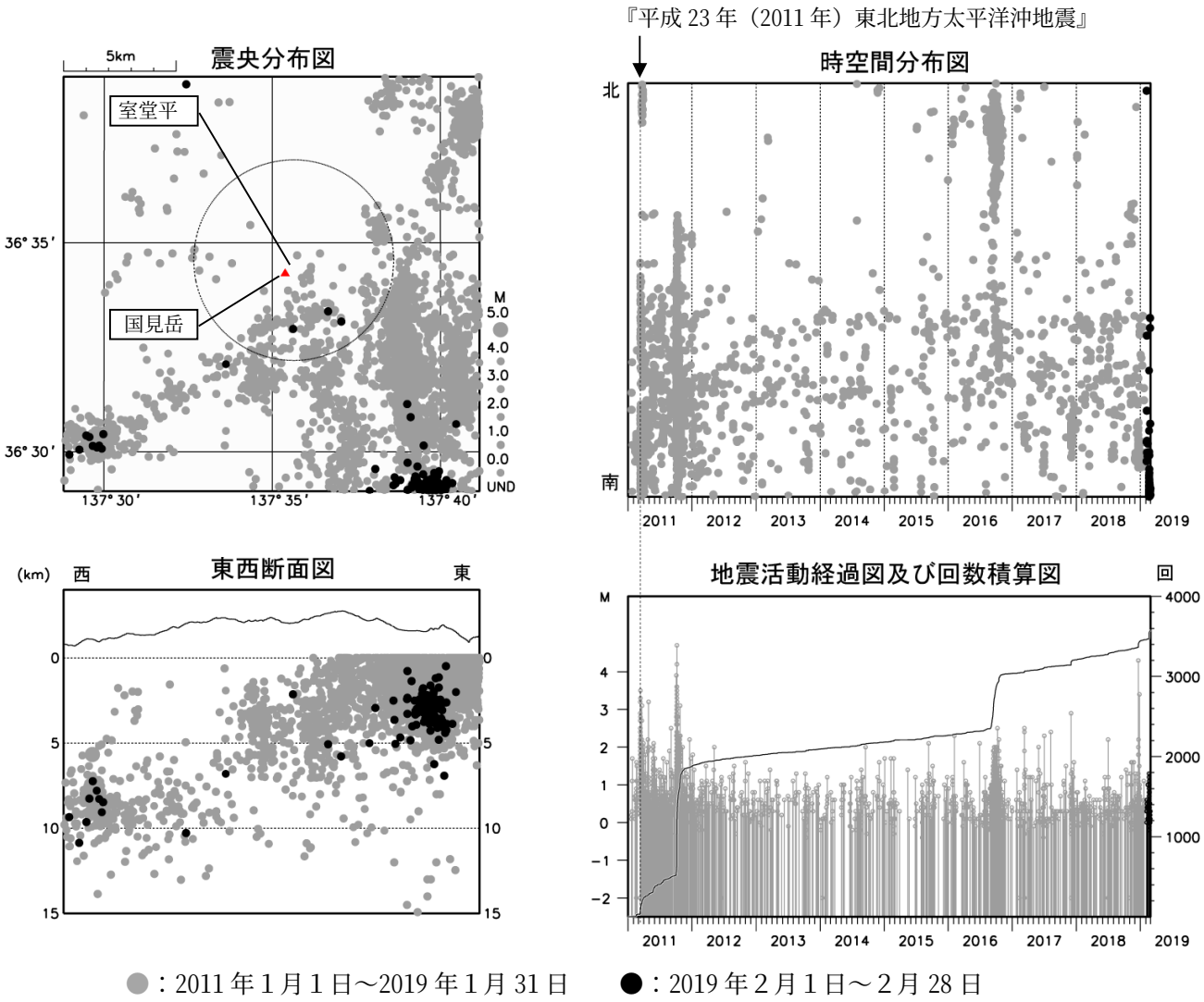



図２　弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年１月１日～2019 年２月 28 日）

震央分布図中の円は弥陀ヶ原の計数対象地震（室堂平で S-P 時間１秒以内）のおよその範囲を示しています。
広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

・弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調に経過しています。
・弥陀ヶ原周辺には、まとまった地震活動がみられますが、弥陀ヶ原の火山活動とは関係ないと見ています。

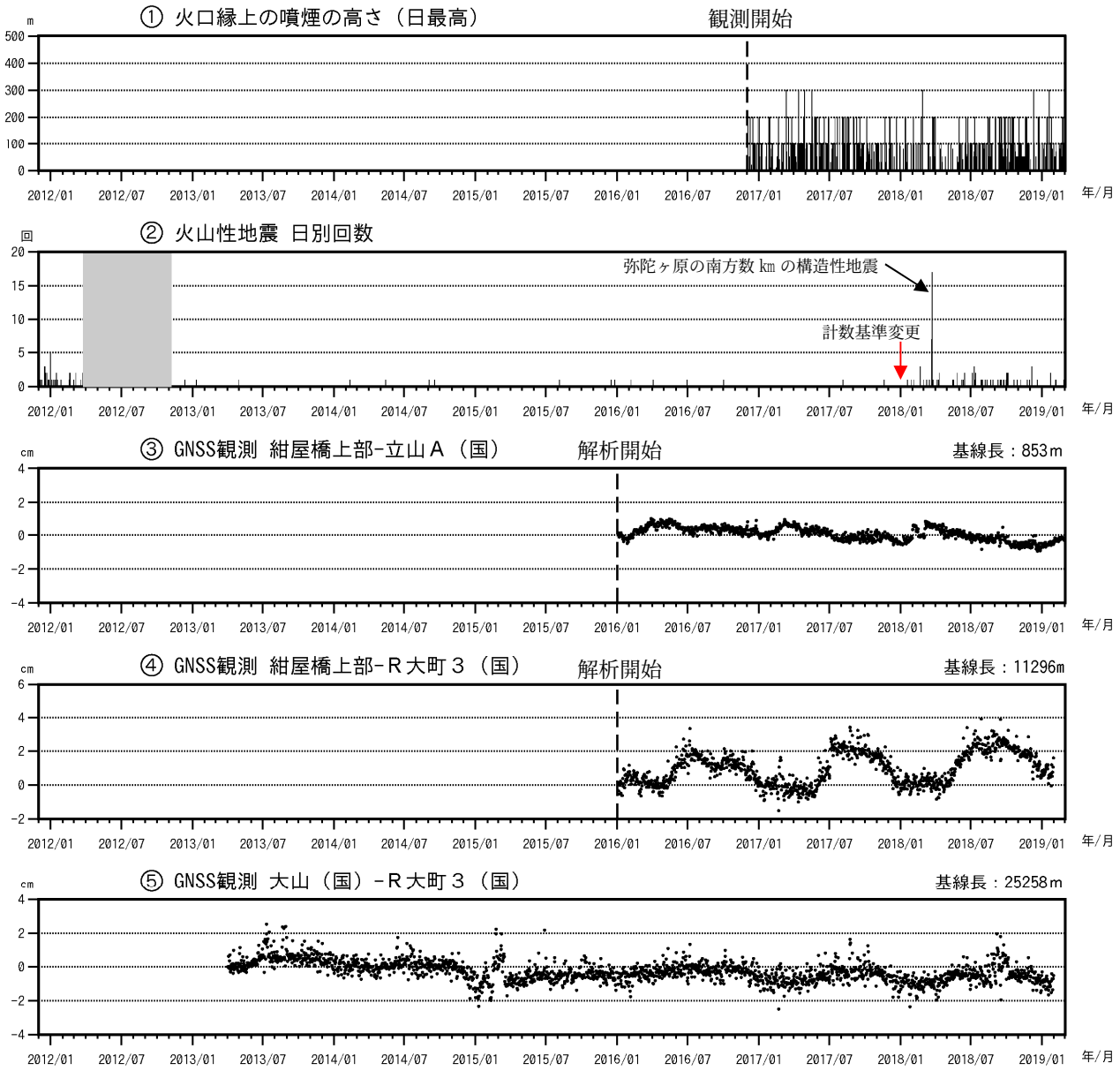



図３　弥陀ヶ原　火山活動経過図（2011年12月１日～2019年２月28日）

噴煙の高さの観測は2016年12月１日開始

グラフの灰色部分は機器障害による欠測を示しています。

③～⑤GNSS連続観測による基線長変化　（国）：国土地理院

＊火山性地震の計数基準

2017年12月まで：立山室堂２の上下成分で最大振幅40μm/s以上

2018年１月～：室堂平の上下動成分で最大振幅１μm/s以上

＊④,⑤の基線データについては、使用するデータに誤りがあったため、遡って再解析を行い、2019年５月14日にデータを更新しています。

・噴煙活動に変化はなく、引き続き、熱活動は活発な状態が続いていると推定されます。
・火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過しています。
・GNSS観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

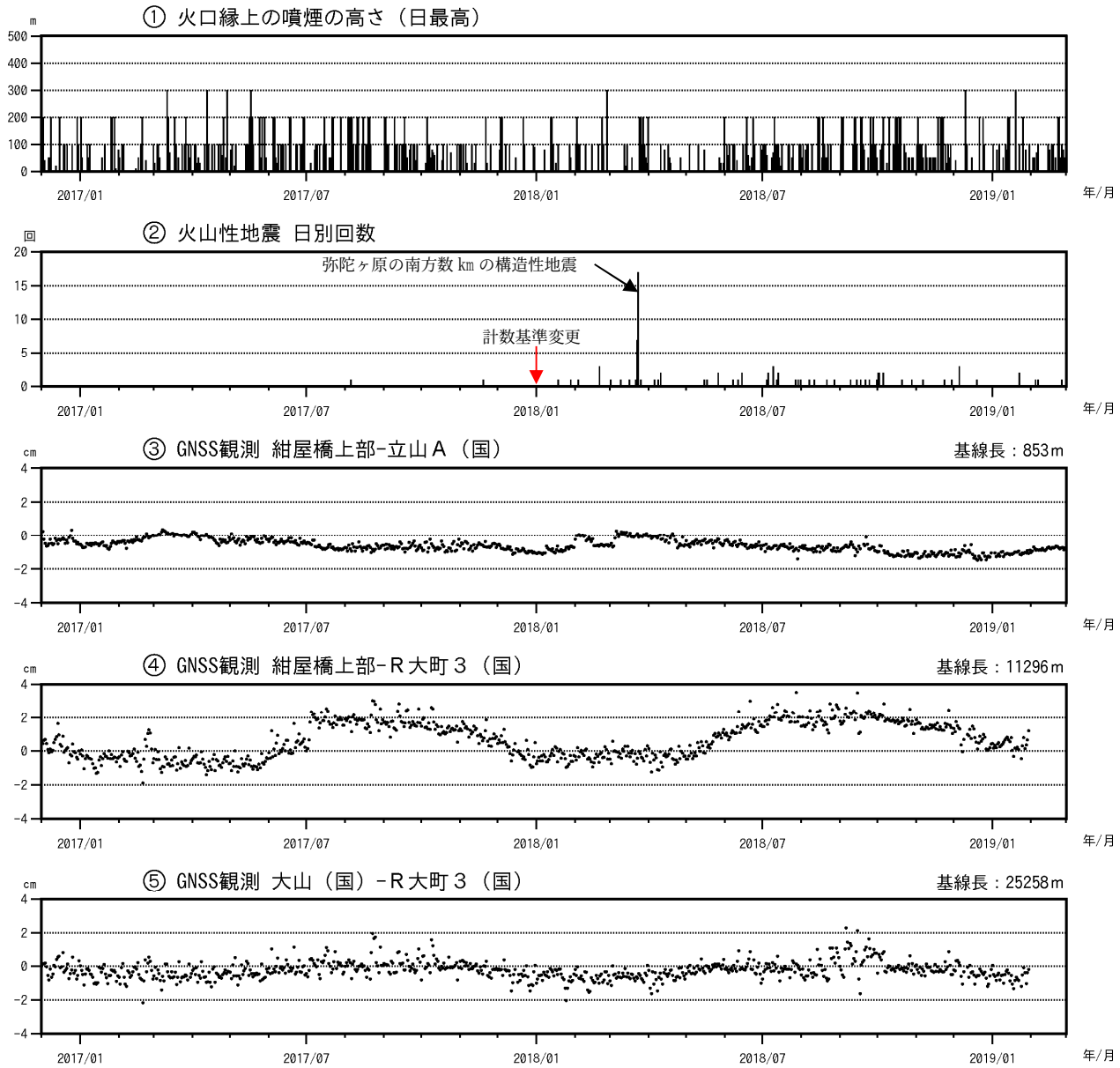



図４　弥陀ヶ原　最近の火山活動経過図（2016 年 12 月１日～2019 年２月 28 日）

噴煙の高さの観測は 2016 年 12 月１日開始

③～⑤GNSS 連続観測による基線長変化　（国）：国土地理院

＊火山性地震の計数基準

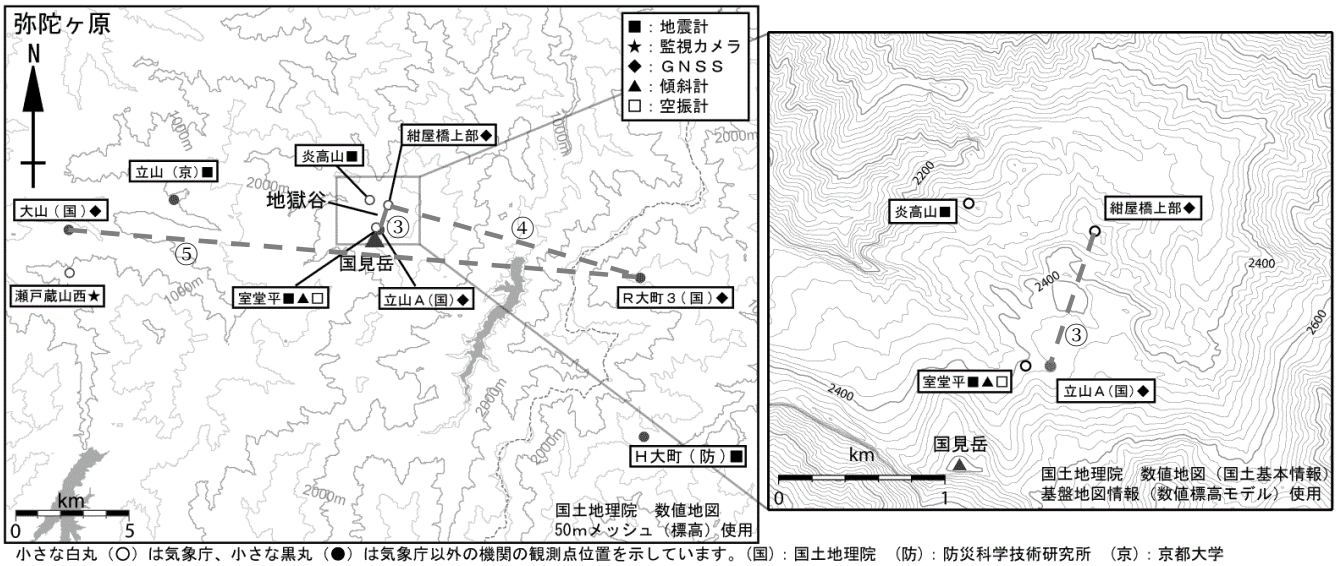
2017 年 12 月まで：立山室堂２の上下成分で最大振幅 40μm/s 以上

2018 年１月～：室堂平の上下動成分で最大振幅１μm/s 以上

＊④,⑤の基線データについては、使用するデータに誤りがあったため、遡って再解析を行い、2019 年５月 14 日にデータを更新しています。

・噴煙活動に変化はなく、引き続き、熱活動は活発な状態が続いていると推定されます。

・火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過しています。




小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。（国）：国土地理院　（防）：防災科学技術研究所　（京）：京都大学

図５　弥陀ヶ原　観測点配置図

図中の GNSS 基線③～⑤は図３～４の③～⑤にそれぞれ対応しています。